



「Where there is a will, there is a way」

～意志あるところに道は開ける～

第21代校長 塩原 正美

桜が満開となり、葉桜となっている枝も見受けられるようになりました。春は卒業式や入学式が行われる季節で、出会いと別れの季節とも言われます。一人ひとりがこれまでの道から、別々の道を歩き出し希望に胸を膨らませ、新しい環境で生活して人と出会っていくからではないでしょうか。人生は平坦な道ばかりではないけど、困難に直面したり挫けそうになったりすることもあります。平坦でない人生がまた面白いのではないのでしょうか。困難に立ち向かえる力、問題解決のための力を日々養っていきましょう。

本校は、令和2年に創立100周年を迎え、3年生は100期生、2年生は101期生、1年生は102期生となる県内でも有数の歴史のある学校です。

タイトルにある「Where there is a will, there is a way」は、アメリカ合衆国第16代エイブラハム・リンカーンの言葉です。どんな困難な道でもそれをやり遂げる意志さえあれば必ず道は開けるという意味です。強い意志をもって物事に取り組みれば必ず成功する、努力は人を裏切らないというような解釈をすることが多いですが、どんなに強い意志を持っても、どんなに努力しても失敗することの方が多いたが現実です。大切なことは強い意志をもって目標を定め、あきらめずに挑戦し努力し続けることではないでしょうか。結果を気にせず、目の前の課題に取り組む努力を続けることが人として大きく成長することにつながるのです。

日々あらゆることに興味関心を持ち、疑問を感じたら繰り返し追求して何事も自分事としてとらえ自分ならどうするか考え日々成長を目指すことが大切です。考えることをやめた時、諦めた時に人の成長は止まる。若いときに経験したことは、これからの人生の糧となり、視野を広げ人生の羅針盤となります。商工高校という場所に集った仲間たちと、一緒に失敗を繰り返し、一歩ずつ未来へのチャンスの扉を開いてみましょう。

新年度を迎え、今の新鮮な気持ちを忘れずに1年間過ごしていきましょう。